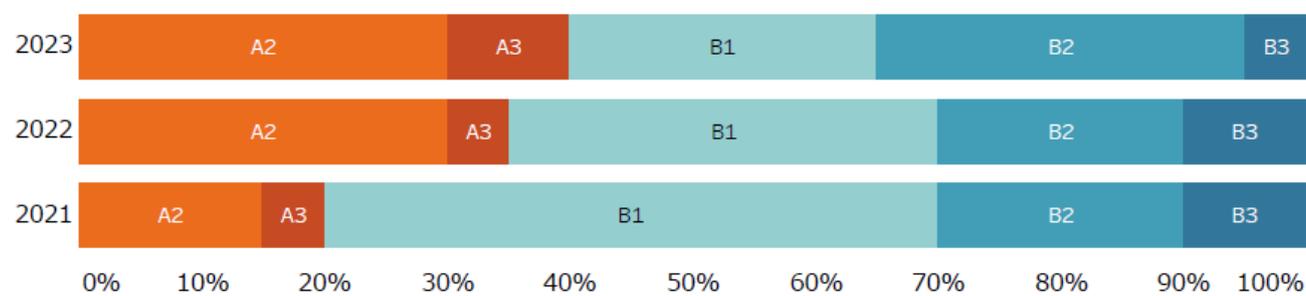


2023年 慶應義塾中等部 算数

過去3年の思考コード別出題割合は次のようになります。問題総数は昨年変わらず(20問)、全体的な難度も昨年とほぼ同じです。知識・技術の正確な再現力が求められる思考コードAレベルの問題が前半、論理的思考力が求められる思考コードBレベルの問題が中盤、すべての場合を調べる高度な論理的思考力が求められる思考コードB3レベルの問題が最後となります。

計算、一行題が大問1~2、大問3が図形の一行題、大問4~5が水そうの問題、立体図形、速さなどの大設問、大問6が調べる問題と、例年同じような構成となっています。一行題では、多くの受験生が触れたことのある典型的な問題が並ぶため、確実に得点を重ねていく必要があります。また、大設問も頻出分野があるので、対策は立てやすいと思います。例年、大問6は調べる問題となりますが、過不足なく、すべての場合を正確に調べる力が求められるため、ハードルは高いと言えます。最上位生が併願先と選ぶ学校となるため、高得点での争いとなります。素早くテンポよく処理していく能力が必須です。



大問1(1)、(2)の計算は落ち着いて、確実に処理をします。大問2までは、反射的に解答できるレベルまで仕上げておく必要があります(後半の問題に時間を費やすため)。テキストの基本問題の習得は欠かせません。大問3も、例年出題される図形の問題でした。焦って解法が思い浮かばない場合、一旦後回しにして、他の問題に取り組む方がよいです。例年、大問3の最後には「図形の回転体」が出題されます。頻出分野ではありますが、形が複雑でとらえづらいです。部分ごとに分けて、ていねいに追っていけば答えにたどり着くことができます。ここも落ち着いて得点したい問題です。

大問4は、速さの問題でした。忘れ物に気づいた所までにかかった時間、家まで戻るのににかかった時間の比に注目して、峠に到着する予定時間、実際に到着した時間を利用します。(1)で求めた情報を手がかりとして、(2)を解き進めることができます。大問5は、水そうに水を入れる問題でした。Aから入れる水量とCから入れる水量は異なりますが、グラフから読み取ることができる情報が多いため、手がかりはつかみやすいと言えます。2種類の割合(Aから入れる水量、Cから入れる水量)を活用していきます。大問6は、例年出題される調べる問題でした。(1)は、和が小さくなるように(百の位に1、2を置いて)調べます。手間はかかりますが、十の位、一の位のどちらで繰り上がるのかに着目すると見つけやすいと思います。(2)は、かなり大変です。実際の試験場では見送って、他の問題の見直しに時間を費やす方がよいかもしれません。

あくまでも予想ですが、大問3(4)、大問4(2)、大問5(2)、大問6(2)、を落としたとしても、7割以上には達することができると考えられます。